

# 令和5年度 佐賀関・神崎圏域 地域連携検討会 報告書

1 日 時： 令和5年8月18日（金）18:30～20:00

2 会 場： 佐賀関・神崎公民館 研修室1・2

3 テー マ： 「佐賀関・神崎圏域の高齢者を支えるために…」

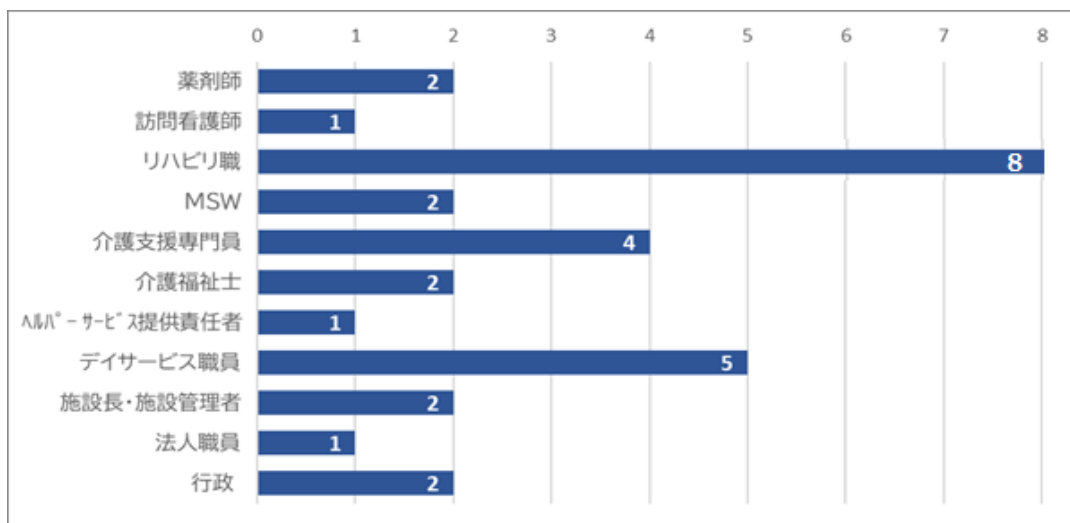
4 発 表： 「佐賀関・神崎地域の課題と、地域での取り組み」

佐賀関・神崎地域包括支援センター センター長 友江 裕幸 氏

5 参加者数： 計39名

職種内訳（30名 / スタッフ9名を除く）

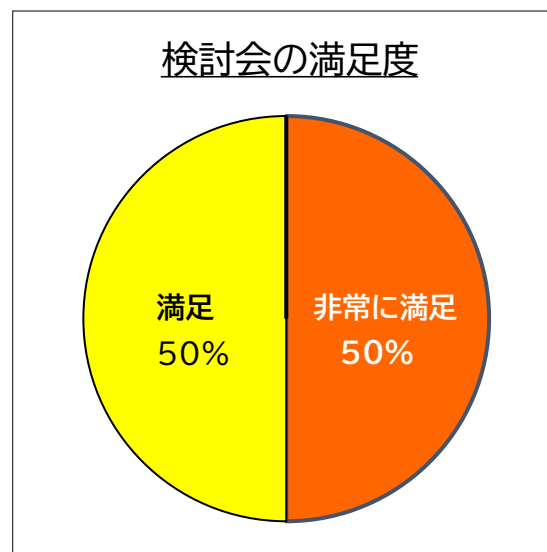
(人)



6 アンケート集計結果（有効回答数：22）

問1. 満足度

非常に満足	11	(人)
満足	11	
普通	0	
不満	0	
未回答	0	



## 問2-1. 開催方法・開催規模について

- ・話し易い環境だった。[社会福祉士]
- ・ディスカッションが盛り上がるので、今回のように対面で行われると嬉しい。[リハビリ職]
- ・医師や保健師が参加されていてびっくりした。「本当に多職種連携になっている」と感じた。[リハビリ職]
- ・顔の見える連携ができることは、大変有意義だと思う。[リハビリ職]
- ・規模は、人数的にちょうど良いと思う。[リハビリ職]
- ・規模的にちょうど良く、グループワークでも一人一人がしっかりと意見を出し合うことができた。[リハビリ職]
- ・実際に参集することで様々な意見が出て良かった。[保健師]

## 問2-2. テーマ設定について

- ・現在の状況を色々聞くことができて良かった。／ 地域の実情を知る良い機会となった。[多数意見]
- ・今後参考にさせていただきたい意見が沢山出た。[多数意見]
- ・これまでの個別支援から一歩踏み込んだ、地域支援について検討できるキッカケとなり、とても良かったのではないかな。
- ・働く地域の現状を見直す良い機会になった。[リハビリ職]
- ・日頃悩んでいることがテーマとして挙がっていて良かった。[リハビリ職]
- ・テーマに沿った、有意義な意見交換ができた。[リハビリ職]
- ・地域テーマとしての的を得ており、有意義だった。[施設長]
- ・地域課題の解決というテーマは、とても良いと思った。[施設管理者]
- ・多職種で意見を出し合えるテーマだったので良かった。[施設管理者]
- ・佐賀関の現状や、それぞれの専門職が感じていることを知ることができて良かった。[複数意見]
- ・もっと具体的な課題に絞り、実際にアプローチするための検討を行う方が良かったと思う。[介護支援専門員]
- ・地域のことを考えながら皆で話し合うことで、何かが始まれば良いと思う。
- ・地域課題を検討する事はとても良いと思うが、「検討」だけで終わる。改善に向けての取り組みに繋げることが大切だと思う。[介護支援専門員]

## 問3. 今回参加して、改めて気づいたことや、今後の業務の参考になると思われること

- ・佐賀関は、市内でも特に課題が多くあるの圏域なので、常に課題意識を持って業務に取り組む事が必要だと思う。[介護支援専門員]
- ・地域での配食へのニーズが高いことを確認した。自分の事業所でも何かできることはないか検討したい。[デイ相談員]
- ・佐賀関の今後の課題が分かった。[デイ相談員]
- ・つながりが大きい地域の話聞いて、考えさせられた。[ヘルパーサービス提供責任者]
- ・各事業所の皆さん、地域を元気にしようと思う気持ちが高く、心強いと実感した。[施設管理者]
- ・佐賀関地域は過疎化により沈下していくものと諦めていたが、福祉・医療の力を集結すれば、小地区ならでの、より良いのサービス提供が可能であると思った。まず私たちが、高齢者の小さな困り事に対応していきたい。[施設長]
- ・自分の地域に、たくさんの社会資源があることに気付けた。[施設管理者]
- ・同じ地域の中にあるサービスや取り組みについて知らないことも多く、もっと知るための努力が必要。[リハビリ職]
- ・自分一人では思い浮かばないような意見を沢山聞いて、勉強になった。[多数意見]
- ・顔の見える関係を作ることの大切さを改めて感じた。[リハビリ職]
- ・コミュニティでのキーマン育成に、専門職が関わることの重要性を感じた。[リハビリ職]
- ・もっと地域に出向いて、やれる事を発信していきたい。[リハビリ職]
- ・利用者の服薬管理に、他の専門職も援助してくださっているのだと知った。[薬剤師]
- ・アウトリーチ（サロンの視察等）をかけ、良いと思う活動を積極的に取り入れている事業所があることを知った。今までは紹介や依頼があってから支援をしており、そうした事をしていなかったことに気付いた。[介護支援専門員]

#### 問4. 今後の地域連携検討会に期待するテーマ

- ・多職種が集まって話せる滅多に無い機会なので、自分の職種への要望などを聞いてみたい。[薬剤師]
- ・『地域の中で、誰もが気軽に集まれる場』づくりについて。[社会福祉士]
- ・実際にあった困難事例を、多職種で検討してみたい。[リハビリ職]
- ・地域の方の取り組み（地域新聞や見回り隊など）について知りたい。[リハビリ職]
- ・色々な症例検討 [リハビリ職]
- ・糖尿病 その他の生活習慣病予防について [リハビリ職]
- ・今回のテーマの継続 [施設長]
- ・今回のような地域課題に対して、経過を経て改めて話し合うのが良いと思う。[リハビリ職]
- ・他職種の、業務上での困りごとを聞きたい。今後支援を行っていく上での参考になると思う。[介護支援専門員]
- ・介護保険外で支援が必要な方（ゴミ屋敷、生活困窮者等）の助けになるような社会制度について、勉強会を開催してほしい。[介護支援専門員]

#### 問5. 日々の業務の中で、多職種連携について感じていること

- ・外に出る必要は感じているが、なかなか時間が取れない。[薬剤師]
- ・今回のような集まりに積極的に参加すると、顔が見えて話しができる地域になるのでは。[リハビリ職]
- ・連携の手段として、I C Tの活用ができれば良いと思う。[リハビリ職]
- ・ケアプラン（特に初回）に、セラピストが感じている課題が入っていないことがある。ケアプラン作成前の情報共有や意見交換が薄いためか。[リハビリ職]
- ・佐賀関・神崎地区は連携が取れている方だと思う。こういう会を続けることで連携は深まるのでは。[薬剤師]
- ・入院した方の顔を見たい。[訪問看護師]
- ・同一法人なら連携は取れるが、今回のような地域に関わる方々（多職種、他事業所）との連携がまだ不十分だと思う。今後は積極的な連携をはかっていきたい。[施設管理者]
- ・デイから通所リハへの移行が進んでいるのか、利用者の確保が大変だと感じている。[デイ管理者]
- ・そもそも各施設間の交流自体が薄い。顔の見える関係を作るために、定期的な会の開催が必要では。[施設長]
- ・訪問して、「もう少し前から支援ができていたら良かったのに」と思う利用者が多い。何か方法を考えていかなければと思った。[ヘルパー サービス提供責任者]
- ・日頃から職員さんと連携を取ることで、相談しやすいので助かっている。[介護支援専門員]
- ・神崎・佐賀関地域においては、医療をはじめ多職種連携はうまく行っていると思う。[介護支援専門員]
- ・職種に囚われずに、気付いたことなどを発信しながら情報を共有することで、連携がとれるようになった。[介護福祉士]
- ・利用者の医療的なことで、気軽に質問に答えてくれる医師の参加が増えることを期待する。[相談員]
- ・「医療・福祉の連携」「多職種連携」の研修は何度も繰り返し行っているのに、実務に活かされていないと感じる。[介護支援専門員]

----- アンケートからは以上です。 -----

## 7 グループワークで出た意見

※ 参加者が感じている地域課題について、解決につながる様々なアイデア等 活発な意見交換が行われました。

意見に共通するキーワード： 「元気な高齢者の活躍」「活躍の場の拠点作り・居場所作り」

### 身近に親族等がない高齢者の支援について

- ・高齢者が元気なうちに、誰かとつながっておく。しかし本当に困っている人は、つながることができるコミュニティに顔を出さないこともあるので、気軽に声を掛けてくるような、お節介焼きの人が必要ではないか。
- ・介入に至る前の方を、どう発見するかが課題。近所の方の世間話から情報が入ってくることもある。
- ・元気な障害者やシニア世代も多いので、そうした方々にも協力してもらえるような体制作りが必要ではないか。
- ・地域の方の活動は心強い。そうした活動例を成功事例として、もっと情報発信されると良いと思う。
- ・困りごとの相談先をポスターにして、掲示板などに貼ってはどうか？
- ・事業所や専門職、専門職団体が「こんなことができますよ」という積極的な情報発信をすることも大事では。
- ・「子ども連絡所」の高齢者バージョンがあると良いのでは。
- ・子ども食堂の間口を広げる<sup>※</sup>など、誰でも利用できるような、集まれる場所作りが必要では。

### 配食について

- ・子ども食堂を「高齢者 200 円」などにして、利用する人の間口を広げてはどうか？<sup>※</sup>
- ・広い厨房を持つ休止中の施設などを活用して、食事の提供をできないか？
- ・食材・人材（高齢者）とも地産地消で、どこか場所を借りて食事の提供してはどうか？  
配食だけではなく、自分の足で買いに行く／出向いて選ぶ等、高齢者に主体性を持たせることも大事だと思う。
- ・できることが多い高齢者は多い。デイ等の活動の中で利用者が作ったものを、利用者が持ち帰るといったのはどうか？
- ・デイ利用者へ、「夕食持ち帰りサービス」の提供を始めた。翌日食べたかどうかを確認している。[デイ相談員]
- ・送迎時に配食できないかと考えている。[デイ相談員]

### 移動手段について

- ・地域の病院が通院患者の送迎も行っているが、予約しているのに来ない方、駐車場所まで自力で来ることができなくなった方等については、各事業所や専門職間で連携することによって可能となる支援もあると思う。
- ・通所系サービスは日中、車を動かしていないので、運転手ごと地域に提供できたらと思う。[デイケア職員]
- ・地域で協力者を募って、スマホなど I T を活用した送迎システムがあると良い。  
※ 地域の高齢者を対象に、大学生がボランティアで、スマホ教室を開催している。
- ・他市では行政がワゴン車を購入し、送迎の運営をしていると聞いた。
- ・グリーンスローモビリティ事業を大分市が行っている。  
[https://www.city.oita.oita.jp/o256/greslo/saganoseki\\_2023.html](https://www.city.oita.oita.jp/o256/greslo/saganoseki_2023.html)  
課内では過去に、電動アシスト付き自転車を地域でシェアするような案も出ていたが……。[行政]

その他、包括職員や居宅ケアマネ、訪問系サービスの専門職より

- ・様々な請求書や申請書類等、高齢者が処理することは難しいので、代わって行うことも珍しくない。
- ・電球や電池の交換など介護保険外の小さな困りごとで誰も対応する人がいない場合は、無償で対応している。
- ・本人の体調が悪い時にはケアマネに連絡したり、救急車を呼んだこともある。・・・等の経験談も聞かれました。

----- 以上 ご参加いただきました皆様、貴重なご意見をありがとうございました。-----